

セミナーに参加したムハマディア大学と筑波学院大学の教授陣
(前列左から5番目が大島学長)＝つくば市吾妻の筑波学院大学



インドネシアの教授と交流

筑波学院大で国際セミナー

筑波学院大学が主催する国際セミナー「インドネシアからの声」が9日、つくば市吾妻の同大学であった。学生や一般市民ら約40人が参加した。

日本とインドネシアの相互理解と交流を目的に、インドネシアのムハマディア大学から招いた7人の教授と筑波学院大学の教授3人が、英語でプレゼンテーションとパネルディスカッションを行った。

プレゼンテーションでは、両大学の教授らが、インドネシアで日本がどう受け止められているかを中心に、マンガから自衛隊まで多彩なテーマで発表を行

った。

ムハマディア大学のシディク・ジャミカ博士は、同大学の100人の学生に行ったインタビューを基に、インドネシアの若者の日本観を考察。また筑波学院大学のセシリア・B・イケグチ教授は、ヨーロッパやアジアにおけるオタク文化の広がり进行分析し、参加者は熱心に聞き入った。

筑波学院大学の大島慎子学長は、「セミナーを機に、同校との交流を深めるとともに、他の海外の大学にも同様の取り組みを広げていければ」と話した。

(大志万容子)